

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●岩田康誠騎手がJRA通算1700勝を達成

1月30日(日)の1回東京2日・第11レースとして行われた根岸S(GⅢ)ではテイエムサウスダンが1着となり、同馬に騎乗した岩田康誠騎手(栗東・フリー)は、史上14人目、現役7人目となるJRA通算1700勝(1万4296戦目)を達成しました。

### ●秋山真一郎騎手がJRA通算1万3000回騎乗を達成

1月29日(土)の1回中京9日・第11レースとして行われた伊賀Sでメイショウミライに騎乗した秋山真一郎騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上22人目、現役15人目となるJRA通算1万3000回騎乗を達成しました。

### ●2021年度のホースランキング1位はニックスゴー

IFHA(国際競馬統括機関連盟)から『2021年度ロンジンワールドベストレースホースランキング』(単位はポンド)が発表され、米ブリーダーズクラシックを制したニックスゴー(129)がワールドチャンピオンに輝きました。日本調教馬はジャパンカップを勝ったコントレイルの5位(126)を筆頭に計42頭がランクインしています。

### ●2021年度JPNサラブレッドランキング発表

『2021年度JPNサラブレッドランキング』が発表されました(単位はポンド)。各部門・牡牝のトップは、2歳がドウデュース(116)とサークルオブライフ(112)、3歳・芝がエプフォーリア(124)とソダシ(115)、3歳・ダートがキャスルトップ(109)とウェルドーン(104)、4歳以上・芝がコントレイル(126)とグランアレグリアおよびクロノジェネシス(120)、4歳以上・ダートがテオーケインズ(120)とマルシュロレーヌ(116)となっています。

### ●セイウンコウセイ、サウンドキアラの競走馬登録抹消

2017年高松宮記念(GⅠ)などの勝ち馬セイウンコウセイ(牡9歳/美浦・上原博之厩舎/JRA通算42戦7勝)、2020年サンケイスポーツ杯阪神牝馬S(GⅡ)などの勝ち馬サウンドキアラ(牝7歳/栗東・安達昭夫厩舎/JRA通算26戦7勝)は、1月5日(水)付で競走馬登録を抹消されました。セイウンコウセイは北海道新ひだか町のアロースタッドで種牡馬、サウンドキアラは北海道千歳市の社台ファームで繁殖馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●チュウワウイザードが川崎記念(川崎)2年ぶり2度目の優勝

川崎記念(JpnⅠ、2月2日、川崎、2100m)は、5番手から追い上げたチュウワウイザード(川田将雅騎手、牡7歳、父キングカメハメハ)が残り200mを切った辺りで抜け出して4馬身差で圧勝、単勝1.2倍の支持に応えました。9番人気のエルデュークラージュ(船橋)が3番人気のヴェルテックスをアタマ差抑えて2着に入り、ブラックアーメットは4着、2番人気の昨年の覇者カジノフォンテン(船橋)は5着、ヒロイックテイルは6着、デルマルーヴルは7着、ケイティブレイブは11着に敗れています。

### ●根岸S(東京)に挑戦した大井のモジアナフレイバーは7着

根岸S(GⅢ、1月30日、東京)に参戦したモジアナフレイバー(大井)は、後方から差を詰めたものの7着という結果でした。

### ●ニューイヤーク(浦和)は船橋のミゲル【各地の主要3歳重賞】

ニューイヤーク(1月19日、浦和、1500m)は、4番手から最内を突いて伸びた2番人気のミゲル(牡、父ディーブプリランテ)がゴール前の競り合いをハナ差制して重賞初制覇。逃げた1番人気のハイセイコー記念の覇者ノブレスノアは4着に敗れました。

### ●メイショウカズサらが出走、2月8日の佐賀記念(佐賀)

佐賀記念(JpnⅢ、2月8日、佐賀、2000m)は、重賞2連勝中のメイショウカズサらが中心、以下ケイアイパープル、アメリカンフェイリス、ライトウォーリアが続き、芝の重賞2勝馬ギベオンは初のダートが課題となりそうです。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1ベガサスワールドC～ライフイズグッドが逃げ切る

1月29日に米国フロリダ州のガルフストリームパーク競馬場で行われたG1ベガサスワールドC(4歳上、ダート1800m)はI.オルティスJr.騎手を背に逃げたライフイズグッド(牡4歳、父イントゥミスチーフ、T.ブレッチャー厩舎)が、連覇を狙ったニックスゴーに3馬身½差をつけて優勝しました。ライフイズグッドはこれで昨年11月のブリーダーズCダートマイル(ダート1600m)に続くG1連勝となりました。なお、2着のニックスゴーはこれで引退して、米国ケンタッキー州のテイラーメイドスタリオンズで種牡馬入ります。

### ●G1ベガサスワールドCターフ～カーネルリウムが連覇達成

上記ベガサスワールドCの1レース前に行われたG1ベガサスワールドCターフ(4歳上、芝1800m)はカーネルリウム(牡5歳、父リウムズマップ)が先行策から抜け出して優勝。同レース史上初となる連覇を果たしました(前身のガルフストリームパークターフH時代を含む)。カーネルリウムは昨年このレースでG1初制覇。その後、5月のG1ターフクラシックS(芝1800m)も同着で優勝しましたが、続く6月のG1マンハッタンSで8着に終わると休養入り。ここはそれ以来の休み明けでした。I.オルティスJr.騎手とT.ブレッチャー調教師はベガサスワールドCとのダブル制覇です。